

終戦ニ至ル迄ノ戦争経過ノ状況	舊所轄部隊ノ状況					歸還月日及行動別 歸還者數 A B C 傷患等	報告者	
	聯合軍ノ取扱	隊員歸還豫定	生活状況		主要担当者職員員數			生 活 地
			服務狀況	食糧狀況				
別紙一通	稍並	不明	別紙一通	別紙一通	定員 生存員數 約 1200 死亡員數 3 傷害者員數 生還員數 1200	昭和三年七月五日樺太島泊發(露船)八月日樺太大泊着十月十九日大泊發(真岡着)十月十日中泊發(真岡着)十月十日中泊發(白龍丸) ②健	所轄 占守通信隊 官職 海軍中尉 氏名 越川 廣吉	

大復函連第 号

在外音隊現狀調査

廣島部長

三月九日付  
結成印

3/9

0493



別紙

主要發留者職員

別	職	階級	氏名	電報符
占守通信隊	中佐	伊藤	春樹	〇三三四
北東航運隊	大尉	喜多	和平	〇七 三三四七〇九
北東航運隊	大尉	石井	秀利	ク一七〇九
五十一警備隊	大尉	佐藤	公明	〇三三四
五十一警備隊	中尉	向川	徳助	コ?
五十一警備隊	大尉	藤村	鏡徳	横銀
五十二警備隊	大尉	三品	敬助	ク二二九七
占守通信隊	少尉	小笠原	健徳	コ一〇三九

生活状況

一 服務ノ状況

九月三日陸海軍合同大隊ノ編成ヲ行ヒ前隊大隊ト下士官兵大隊ト

海軍

(昭和二六) 双文館納

0495

大日本帝國政府

ニ分離サレ又特種技能者ハ別ニ編成サレ占守島ニ於テ各種雜役木材運搬ニ従事ス

2 食糧ノ狀況

ソ軍上陸當時ハ米食デアツタガ次第ニ米モ缺乏シ以後ハパン食デアシ又陸軍部隊ヲ耕作シタ馬飼育等モ主食トシタ

3 衛生ノ狀況

普通

終戦ニ至ル迄ノ戦争経過ノ狀況

昭和二十年八月十五日ヲテオ放送ニ依リ大略ノ終戦ヲ知り八月十九日ソ海軍艦艇出現一九〇〇頃艦艇射撃アリタルモ我方キ被害ハナカツタ第一回ソ軍出陣ニ上陸ニ依リ占守通信隊五十一番備隊、北原航空隊會々ヲ約一、二〇〇名其他陸軍部隊七三旅團ト共ニ應戰擊退ス同日時山不詳ソ軍約二、〇〇〇名國端岬附近ニ上陸若干應戰スルモ停戰命令依リ反攻停止爾後引續上陸シ我方ノ被害ハナカツタ北東部ヨリ進攻機一機偵察機二機ニ出撃十九日敵輸送艦一隻自燃々撃テ依リ

擊沈シタト思ハル、モ終ト暗夜ト、爲備取シ得ナイ八月十九日時  
不明「通信コレニテ止ム」電報被傳後我軍ノ手ニ依リ通信機置破  
以後連絡ハ杜絶シタ。

終戰下令時ヨリ武器接收終了迄ノ概要

北東空（四十一空廠）艦攻三機約一〇〇名五十一警水陸兩用戰車  
二、三番二十五機銃約十挺約八百五十名占守通約二五〇名八月一  
十三日三番陸軍飛行場ニ於テ陸海軍集結ヲ命ゼラレ「ソ」軍代表ト  
海軍大尉佐藤公明（五十一警一トノ間ニ「日魯」通譯ヲ介シテ武器  
接收及武裝ヲ解除シタ

友軍海軍部隊ノ状況

將校大歐ハ陸軍七三旅團將校ト共ニ西比利亞方面へ十二月末頃進行  
サレタ模様。尙款本中尉、廣瀬兵曹長ハ下士官<sup>各</sup>共ニ「カムチャツ  
カ」方面へ十月中旬頃進行サレタト思フ。

乗船當時ハ東京ニ歸還サストノ旨ニテ乗船セル模様

一 被在邦人ノ状況

次給ニ米モ不足シ配給モ少イ爲ニ被服其ノ他不用品ヲ食糧トヲ交

換ニ持出シ蘭市ノ煤ナモノアリ而物ガ見受ケルガ相當高價ノ煤デス  
然料等モ不足シ石灰ノ配給ハ殆ト無イ模様ナリ此材所ハ廢材等ヲ利  
用シ然料ニ充當シタ  
一般町民ハ臺灣ノ荷揚作業ノ聯軍ノ倉庫作業等雜役ニ使フ事人ハ一  
般人トノ通話ハ全然禁ジラレ時々町民ヨリ内地ノ情報ヲ聞ク事モア  
タ方機密ニシテ情報ニシテ確良性ハナイ

(終)